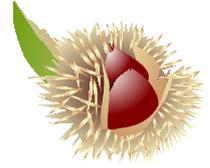




にじいろ 虹色

秋田県生涯学習センター
〒010-0955 秋田市山王中島町1-1
TEL: 018-865-1171
FAX: 018-824-1799
E-mail: sgccn002@mail2.pref.akita.jp
編集: 社会教育アドバイザー

暑かった夏も終わり、日に日に涼しさを感じるようになりました。今年度4月から社会教育アドバイザーとして活動し、早半年が過ぎようとしています。現在、秋田県では、出生率を含め、負のデータが強調され、秋田県民は自信を失っている状況ではないでしょうか。最近、他県の人に「秋田県は自然の美しさや豊かさに恵まれており、もっと自信と誇りをもってほしい」と言われたことが強く心に残りました。秋田県民一人ひとりが秋田に自信をもつことが秋田の活性化につながると強く思っています。気候の変わり目、皆様、くれぐれもお体に気をつけてください。



あきたスマートカルッツ

〔歴史学専門講座Ⅰ〕 戦国末期から江戸初期の東北・秋田

織田信長と奥羽

9月10日(土)、東京大学史料編纂所准教授金子拓氏による講演『織田信長と奥羽』があり、147名の受講者が参加しました。

金子先生は、文部科学省の助成を受けて、織田信長の家臣太田牛一によって書かれた『信長公記』を全国にわたって自筆本・写本・伝本の調査をし、その成果を『織田信長という時代』にまとめられ、今最も著名な織田信長の研究者の一人です。また、東京大学史料編纂所では、現在『大日本史料』第十編(まさに織田信長の時代)の編纂が続けられています。

- 講演の中で金子先生からは、『織田信長と奥羽』の関係について次のように指摘されました。
- 『信長公記』で信長と通交が確認できる奥羽の大名は、伊達氏・大宝寺氏・安藤氏・前田氏・南部氏・遠野氏・蘆名氏である。その他、文書で残るものには白鳥氏がいる。
 - 安藤氏と信長の通交は1575年(天正3年)に始まった。それは、安藤愛季から鷹・馬、織田信長からは太刀・虎皮等が送られるという関係であった。贈り物は日本海ルートが利用されたと考えられる。また、信長は公家の三条西実枝を仲介として、愛季を「従五位下」(その後従五位上・侍従)に推挙している。
- このように、安藤氏と信長の通交は政治的・軍事的な関係は見られない。
- 信長から伊達氏の通信は、1573年(天正元年)12月28日付のものが最初の手紙(文面により、それ以前に伊達氏より信長宛に手紙が送られている)であるが、武田信玄の病死等の政治的な動きを詳しく書き送っていることが安藤氏と異なる点である。
- その後の信長から伊達輝宗宛ての手紙にも政治的な動きを詳細に知らせてあり、信長にとって伊達輝宗は奥羽における軍事同盟の相手と位置付けられていた。

最後に金子氏は、信長の長男信忠の「秋田城介」就任を例に、信長が天下統一を目指していたと考えられているが、古い形式の文書の発給手続きが廃れていたため、その手続き復活を画策した公家に利用されたと推定でき、信長が全国統一を必ずしも目指してはいなかったと講演を締めくくりました。

受講者からは「信長と奥羽の関係を大変興味深く聞かせてもらった」等の意見が寄せられました。



講演中の金子先生

行動人

《学んだことを生かして行動する人》

秋田には、学んだことを生かした行動で、地域や周囲の人々を元気にしている人たちが大勢います。



齊藤光子さん

齊藤光子さんは、割り箸を使っての書画の制作を続けられています。齊藤さんは今から22年前、出産時出血多量で危篤になり、子どもに何か残そうと割り箸を手にして書いたのが始まりだそうです。

齊藤さんは割り箸書画を使ったカレンダーを毎年作成し東日本大震災の被災地に送る活動や、地域の絵本を作って学校に持っていき感想を割り箸で書いてもらう、といった活動も行っています。

「言葉や文化の大切さを伝承していきたい」と語るように齊藤さんの書画に込められた含蓄のある言葉には、見る者に大きな感動を与えてくれます。



生涯学習センターで行われた
割り箸で描く書画教室



『神申す~さくらさく~』



『命の華』

平成28年度 生涯学習・社会教育関係者実践講座V

8月25日(木)、横手市民会館を会場に、生涯学習・社会教育関係者実践講座Vが70名の参加者により開催されました。

話題提供として、秋田県企画振興部活力ある集落づくり支援室(元気ムラ支援室)室長佐藤廣道氏より、1. 秋田県の地域コミュニティ政策、2. 社会教育行政と一般行政における地域づくり支援、3. 地域人材を活かした地域活性化の事例、4. 課題と行政の役割について話がありました。受講者にとって興味があった3の点については、県内各地で実践されている様々な最新の事例が紹介され、活動の多様さや、実際に活動されている方々の熱意に感心させられました。

4の課題については、活動を進める際『一人での戦いは負け戦』、『危機感とワクワク感の共有』、『人材不足は当たり前』、『「見える化」を進める』の4つのポイントをあげ、それぞれと関連させながら「行政の役割」について言及されました。

佐藤氏による話題提供を受け、後半は10グループに分かれて、「地域人材の力を活かした地域活性化について考えよう」のテーマで約1時間の話し合いがもたれました。各グループで熱心に話し合いが行われ、あっという間に所定の時間が過ぎてしまいました。最後に各グループの代表により、話し合いの内容の発表がありました。受講者からは、「佐藤氏の話はとても分かりやすかった」、「異なる立場のメンバーが集まり、様々な意見が出て新鮮で、勉強になった」等の意見が寄せられました。



話題提供中の佐藤廣道氏



グループ協議中の受講者